

平成30年度愛知県がんセンター公開講座(第2回)のご案内

「AYA 世代がん(思春期・若年成人のがん)」

= 平成30年7月28日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

### 「基調講演「AYA 世代がんの医療の課題と対策」

AYA 世代は、治療成績の改善率が他の世代に比べて十分でないことや就学、就労、恋愛、結婚、出産、子育てなど世代特有の課題を抱えているものの、がん患者の数が少なく、これまで十分に対策が施されていませんでした。最近の調査で、AYA 世代のがんは希少で診療経験の蓄積が乏しく、多様な患者のニーズが満たされていない実態が明らかになり、国のがん対策推進基本計画に AYA 世代がん対策が取り上げられました。今後、多様なニーズに応えるための情報や相談の窓口の明確化、多職種チームによる包括ケア提供体制の整備、就学・就労、生殖医療、ピアサポートなど既存の各種機関や団体との連携体制の構築が期待されます。

名古屋医療センター 臨床研究センター長 堀部 敬三

### 「AYA 世代がんを支える～相談支援の立場から～」

AYA (Adolescent & Young Adult 思春期及び若年成人) 世代で突然降りかかるがんの罹患体験は、強い精神的不安とともに、仕事や学業、経済的問題、結婚や妊よう性(妊娠のしやすさ)の問題、家庭内の役割等の課題に直面することになります。

当院のがん相談支援センターでお受けした、AYA 世代のご相談は、全体の約 6%と数は少ないですが(平成 29 年度)、中高年世代の相談とはまた違った、それぞれの相談者が持つ切実さをひしひしと感じます。

今回は、相談支援センターに寄せられたご相談から、AYA 世代が抱える課題や現状を知っていただき、支援について考える機会にしたいと思います。

また、一人で悩んでいる方があれば、正しい情報を得て、相談への一歩につながる事ができればと思います。

中央病院 地域医療連携・相談支援センター 室長補佐 船崎 初美

## 「AYA 世代がんの肉腫治療の問題点と取り組むべき課題」

AYA 世代とはまさにこれから人生設計を行う大切な時期と言える。AYA 世代がんの代表疾患である肉腫（サルコーマ）は、①希少がんであるために治療を集約化して行わなければならない②多診療科にまたがる治療が必須③患肢温存術後の機能障害④大量化学療法に伴う晩期合併症など様々な特有の問題点を抱えている。肉腫患者さんの早期発見早期治療を実現しその社会復帰を支えていく体制づくりが求められており、そのために解決しなければならない今後の課題について概説する。

中央病院 整形外科部部長 サルコーマセンター長 筑紫 聡

## 「AYA 世代がんを支える～血液内科の立場から～」

私たち血液内科医は 10 代後半から 80 代、90 代、あるいはそれ以上の幅広い年齢層の患者さんを対象に診療を行なっています。AYA 世代に起きるがんとそれ以上の世代に起きるがんは、例えば疾患は同一であったとしても、生物学的、臨床的に違いがあることがわかってきました。本講演では、年齢による違いの解明が最も進んでいる急性リンパ性白血病に焦点を当てて、AYA 世代がんの特徴、治療成績改善のための試み、診療上の問題点、今後の課題についてお話ししたいと思います。

中央病院 血液・細胞療法部 医長 柳田 正光